

私は読書が好きである。ただ、これを趣味と捉えたことは一度もありません。

読書は、小生にとって大切な知識情報源の一つとして、また、思考方法の助言者として、謂わば生きる上での羅針盤で

あり、生きる貴重な糧として存在し、よって、書籍の選択は真剣で計画的であり、且つ選定の対象書籍をじっくり精読するのが、小生にとっての独自の読書法である。

“一年の計は元旦にあり！”に因んでではないが、正月三が日は、毎年、年間の読書計画を楽しみながら真剣に設計するのが新年の恒例行事である。

その作業とは、先ず当年の読書テーマを設定し、小生独自の12～13の分野に分割設定したジャンル単位別に当年の読書対象書籍を選出し、当年の読書推進予定表を作成することで、これが毎年の年初の大きな楽しみの一つである。で、今年読書計画は、

I. 「物忘れ健忘症の増進停止とコロナ感染拒否」を読書テーマに設定。

II. 選定した読書ジャンルは、

政治、経済、金融、医療、世界、日本、世界史、日本史、NHK大河ドラマ、歴史小説、日本純文学、思想、俳句そして推理小説の14分野。

III. 書籍名は、

財務省・主計局、計量経済学、小説 日銀券、コロナを知る、イラク情勢を知る、ザ・ジャパニーズ、文化大革命、昭和史(戦前・戦後)、(大河ドラマ)青天を衝(つ)け、小説伊勢物語・業平、細雪、知的生活、俳句入門、そして、砂の器 の14冊を選定した。

これが、今年読書計画で、一冊一冊じっくり精読での読破を今年も楽しみたい。

